

# 公共交通の現状と今後の 取り組み

2024年3月23日

桜美林大学ビジネスマネジメント学群

戸崎 肇

# コロナ禍が示したものの

- 「移動」の重要性
- ⇒ 身体的・精神的・社会的健康への影響
- 「エッセンシャル・ワーカー」としての社会的位置づけの欠如
- ⇒ 交通政策基本法の見直しの必要性
- ○ 災害時における公共交通の位置づけ

## エッセンシャル・ワーカーとされる職業の例

医師

看護師

薬剤師

保育士

介護士

公共交通や  
トラックの運転手

電気やガスなど  
インフラ関係

スーパー店員

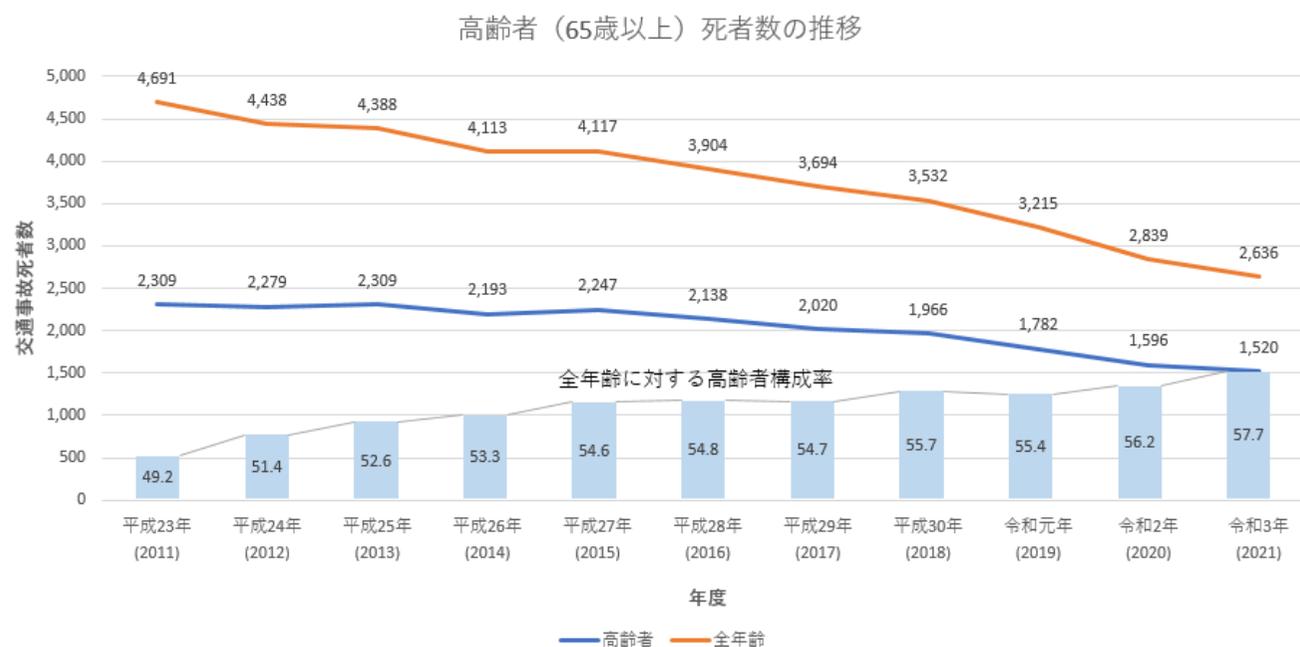
警察官

消防・救急隊員

など

# 高齢社会における公共交通の役割

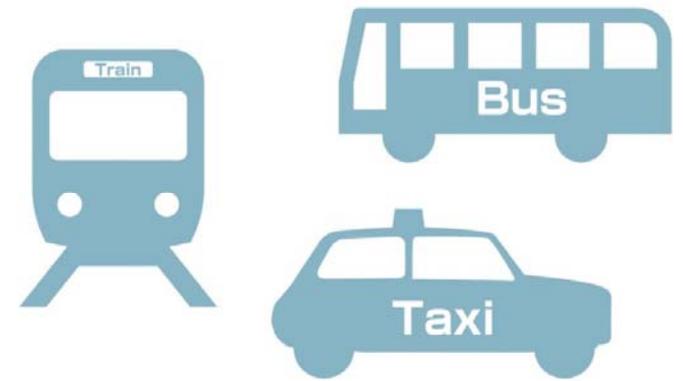
- 高齢者が関与する交通事故
- 免許返納がもたらす影響
- ⇒ 認知症の発症
- 生活困難
- 扶養家族の負担増



# 公共交通の経営難

- マイカー中心の交通行政の帰結
- 公共事業にどこまで自主採算を求めうるか？
- 交通政策
- = 医療政策 + 福祉政策 + 教育政策
- etc

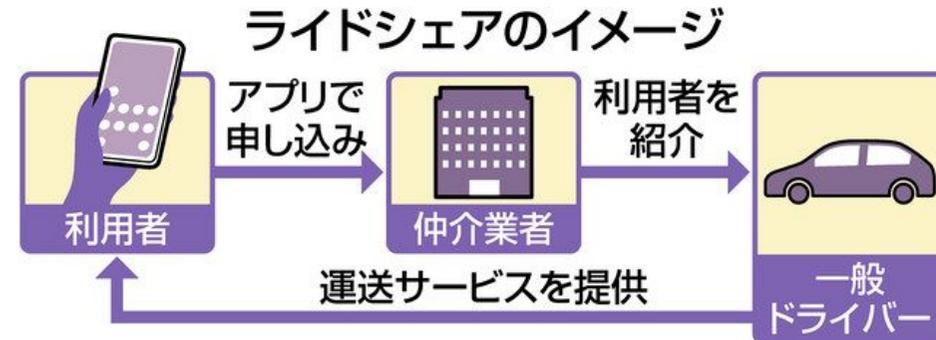
## 地域公共交通 赤字=廃止でいいの？



地域公共交通が**廃止**になったら、  
医療送迎やスクールバスが必要となり、  
現在の補助金より行政コストが**増加**するかもしれせん

ちょっと**計算**してみませんか？

# 運転者不足への対応



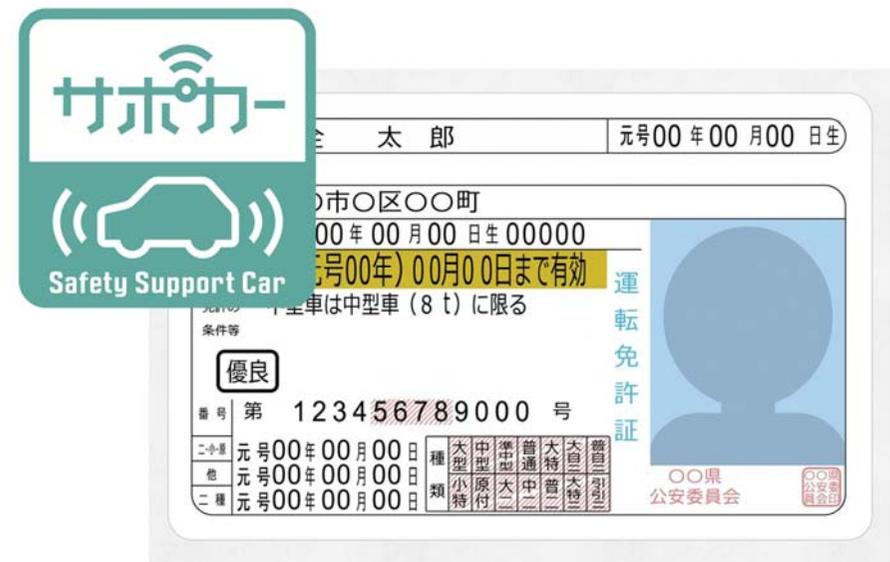
タクシーとライドシェアの違い

| タクシー  | ライドシェア    |
|-------|-----------|
| 2種免許  | 普通免許      |
| 会社が育成 | 運転技術の基準なし |
| 会社    | 個人        |

- 労働条件の改善
- 「交通税導入」の試みなど
- ⇔ 「ライドシェア」導入をどう見るか
  - 交通政策上の問題：公共性の観点、安全管理の観点
  - 労務管理政策上の問題
- AIなど高度情報技術の導入
- 自動運転など⇒「ブラックボックス化」がもたらす問題性
- 「混在交通」化における自動運転の困難化⇒「サポート」の重要性

# 労働力の充実に向けて

- 女性労働力のさらなる活用
- ハード・ソフト両面における環境整備
- タクシーなどでの顧客によるセクハラ問題への対策など
- 高齢者労働力の活用
- サポート・カーの導入促進
- 外国人労働力について



# 2024年問題について

- 物流の停滞は起こるか？
- 荷主との関係性の改善
- 荷積みにおける報酬の支払い、待ち時間の短縮など
- \*（日産、ビッグモーターの下請法違反）
- 荷積みにおける最新技術の開発の促進



# 街づくりと公共交通

- それぞれの地域に最適な交通体系の整備
- **地域公共交通会議**の根拠法規は「道路運送法」であり、乗合バスやタクシーなど、旅客自動車運送事業（道路上で自動車を用い、旅客から運賃を得て運送サービスを提供するもの）が協議対象です。また、自家用車による有償運送も対象となる。
- 一方、**法定協議会**の根拠法規は「地域公共交通活性化再生法」であり、バスやタクシーだけでなく、鉄道、旅客船など、全ての交通モードを対象とする。法定協議会には、地域公共交通会議のように事業規制に関わるような機能はない。法定協議会の最大の機能は、主宰する自治体の地域公共交通計画を策定し、実施することである。

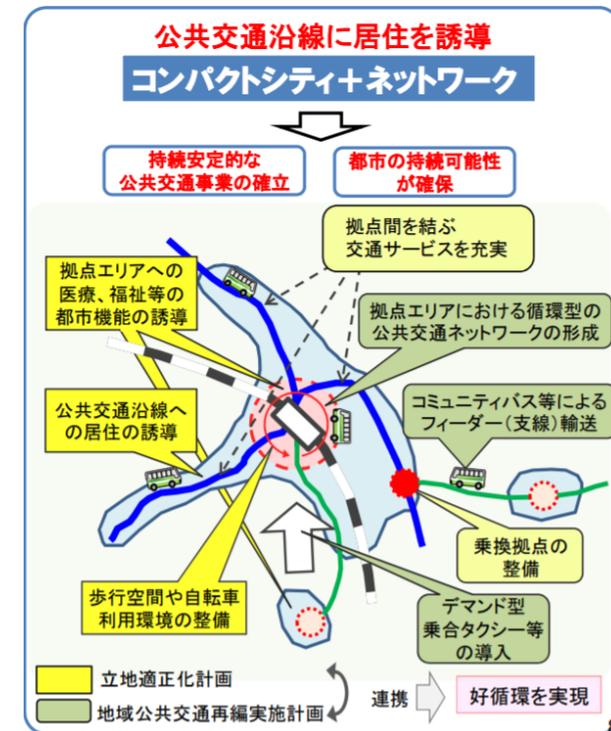
# 公共交通が活かせるようなまちづくり

- ヨーロッパの場合
- LRT
- MaaSなどによる
- 利便性の向上
- 自己の見直しによる
- 利便性、収益性の向上



# コンパクトシティ

- (3つの特徴)
- 高密度で近接した開発形態
- 公共交通機関でつながった市街地
- 地域のサービスや職場までの移動の容易さ
- (論点)
- 核をどのようにして形成するか (青森における「アウガ」の例)
- 都市部での生活は郊外での生活よりも費用が掛かってしまうため、多くの住民の負担を増加させてしまう恐れがある。
- ⇒ 車社会において郊外から中心部に移動させることの困難さ
- 「居住の自由」



# 今後の取り組み

- 「公共交通」における今日的評価と、社会的認知の向上促進
- 財政支援の強化に向けた啓発活動
- 総合的な交通政策の推進



ご清聴ありがとうございました。

